

沿海鉱物資源探査と 地下水開発の国際集団研修始まる

安 齋 俊 男

エカフェからの強い要望にこたえてかねて準備中であった 沿海鉱物資源探査 (Off-shore prospecting) と地下水開発 (Groundwater resources exploration) に関する2つの国際集団研修が それぞれ去る5月18日 6月5日から開講された。

これらの集団研修コースは 日本政府の経済協力の一環として 海外技術協力事業団が行なう70におよぶ集団研修の一部となるが 講義 実習の技術面は地質調査所が中心となって担当するもので 各大学 官庁 会社から講師の派遣 実習等について協力を得ている。

沿海 鉱物 資源 探査 コース は 5月16日開講式18日から講義をはじめられた。研修生は韓国2 中華民国3 フィリピン ベトナム タイ マレーシア各1 インドネシア2の計11名で 講師は約25名である。コース予定としては 8月はじめまで地質 鉱床 地球物理 物理探査等の講義を行ない以後12月はじめまでを野外実習 見学旅行 室内実験 討論等にあてている。

地下水 開発 コース は6月5日開講式を行ない午後からただちに講義が開始された。研修生は韓国 フィリピン タイ ラオス ビルマ インドネシア セイロン インド パキスタン アフガニスタン イラン 各国から各1名 計11名で 講師は同じく約25名である。

このコースでは講義と実習 工場 工事現場の見学などをおりまぜて進む予定で 同じく12月はじめにコースを終える予定である。

地質調査所としては これら研修のための施設を急いでいるが とりあえず 講義は海外技術協力事業団付属の講義室で開始された。

すでに開始された研修から得た印象としては 研修生は皆それぞれの国を代表する中堅技術者で 研修終了後 自国に帰って重要な任務を与えられることになっているため きわめて熱心であり まじめな研修が続けられている。このような研修は地質調査所にとってはじめてのことであり また講義も英語で行なわれているので いろいろ手違いや不備な点もあるようであるが 講師と研修生の熱意によって これを克服して行けると思われ 来年度 再来年度にはより充実した内容のあるのにした い考えである。

(筆者は海外地質調査協力室長)



地下水開発集団研修開講式 (佐藤所長の挨拶)



沿海探査集団研修生



地下水開発集団研修生